



宮越 馨 (無所属)

子供年金制度などの政策実現に向けて



問 初登庁時の職員への訓示で、私について触れたが、発言の真意を聞きたい。

答 剛腕な方と受け止めている。職員との軋轢あつしきなくアドバースを期待する。他意はない。

問 人口減少を緩和する施策について、いろいろ掲げているが、出生数の増加につながる決め手となる「子供年金制度」へのニーズ調査を行うべきだと思うがどうか。

答 議員が同制度に以前から取り組んでいることは承知している。財源の見通しが見えない状態であるが、第3子以降の子に対し、5万円支給する制度のニーズ調査については検討したい。

問 豪雪地帯におけるハード事業、特に土木建設事業の執行を平準化するため、「予算の複数年化制度」を導入すべきではないか。

答 関係業界からの要望もあるが、現在、債務負担行為制度や繰越明許費方式で、年度内発注をしながら、切れ目なく2か年度間の調整をしているので、当面は現行制度で対処したい。

問 岸田政権のデジタル田園都市国家構想について、かつて全国に先駆け整備したアーバンビレッジを「田園」「上箱井」に次いで、新幹線駅周辺のまちづくりの中で整備すべきではないか。

答 ほ場整備事業「和田北部地区」に合わせての整備は、タイミングや県及び地元調整が必要であり、今のところ着手は難しい。



渡邊 隆 (久比岐野)

改めて市長の政治姿勢及び公約を確認する



問 市長が掲げる「若者が帰って来たくなるまち」とは、どのようなまちで、その取組方法は。

答 若者や子育て世代の人口を増やすことが重要であり、そのためには、進学や就職で一旦外に離れても、また戻って来たいと思えるように、ふるさとに対する誇りや愛着を高めていくことが必要である。公約である「通年観光」を目指した取組で、当地の歴史・文化資源に磨きをかけ発信する。それが愛着や誇りの醸成にもつながる。あわせて、若者・子育て世代の「くらし」と「しごと」の希望が叶う環境の整備を進める。

問 市は遅れていると言うが、職員の認識は。

答 国内外から当市に訪れる皆さんの受入れ環境が整っていないと感じている。歴史・文化資源に磨きをかけるなど通年観光に向けて取り組む。また、国がデジタル化や脱炭素化に向けた取組を推進する中、当市の動きが見えない。職員の認識は、時間がなくまだ確認していない。

問 歴史文化を生かした「通年観光」の内容は。

答 ①雪国文化の「雁木町家」「寺町」の街並み整備・保存、②町家・古民家の整備、③雁木やアーケードを活用したカフェ等を設置し賑わい創出、④直江津に鉄道博物館を整備し、資源を面で捉えながら来訪者が楽しめる仕組みを整備、⑤春日山エリアを本格的な観光地とするため、上越の食や産品等を提供できるよう整備する。

11月に議会報告会・意見交換会を開催しました

令和3年11月6日～10日にかけて浦川原区、大潟区、中郷区、名立区の4か所で議会報告会・意見交換会を開催しました。前半は議会の取組や9月定例会の審査の内容を説明し、後半は市民の皆さんと意見交換を行いました。市民の皆さんからいただいた52件のご意見から、一部をご紹介します。

- SNSに接することができない市民は情報過疎になっている。その点について、行政に理解してほしい、議会としてもチェックしてほしい。
- 山間地の林と田んぼを保全してほしい。農業離れの原因は米の値段が安いからだ。山間地の米価を倍にすれば農業参入の意欲になる。林業も、間伐材等有効利用できるよう何とかしてほしい。
- 北越急行とえちごトキめき鉄道の経営が厳しい。今後どうなるのか。
- 保育園の民営化に当たり、市の補助制度がないと民営化は困難である。
- 女性市議が増えて、市議会にどのような変化があったか。

その他のご意見や回答は、議会ホームページに掲載しています。ホームページは、「上越市議会 意見交換会」で検索いただくか、右のQRコードからご覧ください。

